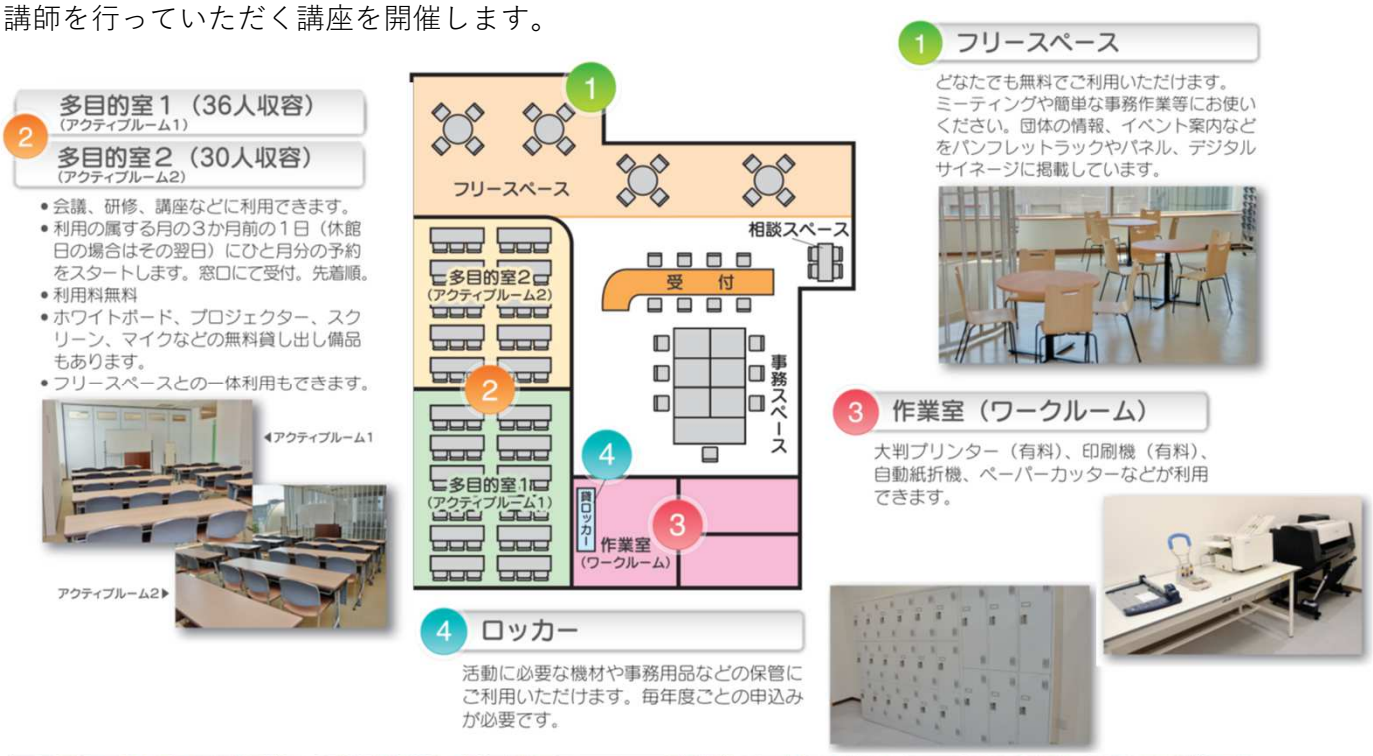
新たな視点２「多様な人材の活躍を推進する」

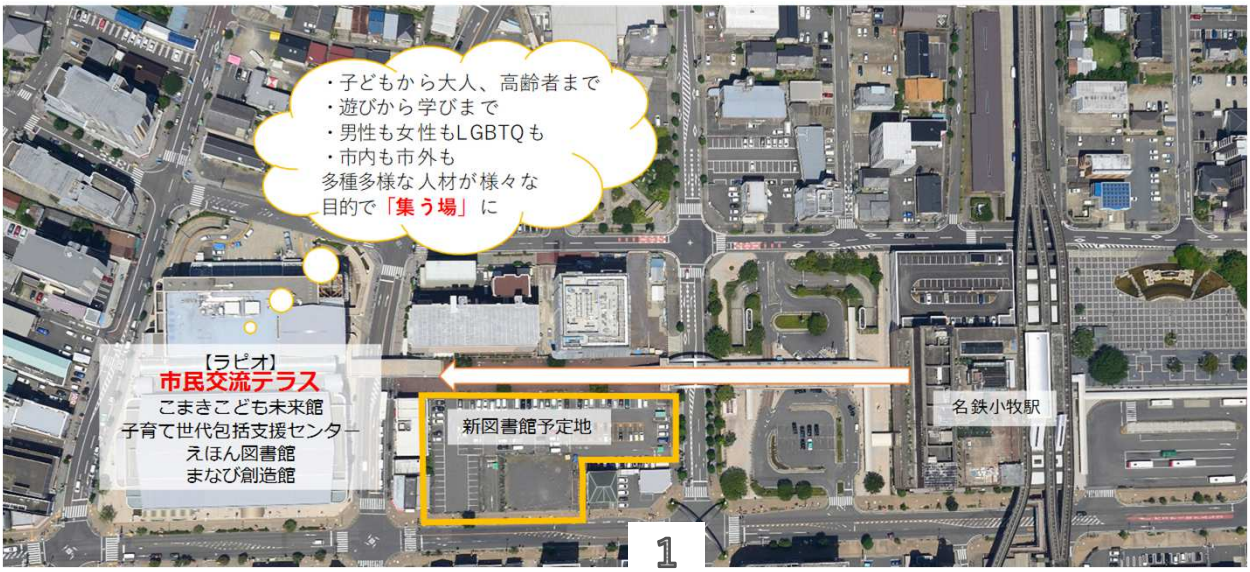
資料２-２

①こまき市民交流テラス（愛称：ワクティブこまき）　基本目標３・４

「ラピオ」内に市民活動団体の助言、サポートのほか、市民活動、ボランティア活動、地域活動、生涯学習の情報発信や連携を図ることを目的に令和２年９月１日にこまき市民交流テラスを開設しました。開設にあたり市民から愛称募集を行い、『ワクティブこまき※』に決定しました。
※「Active」に「ワクワク」と「Work（働く）」という意味を持たせた造語。

◇相談・支援事業
　市民活動支援や団体間のネットワークの構築に加え、ボランティア活動や地域活動、生涯学習など、幅広い分野の活動の相談に応じます。
◇マッチング事業
　活動を求める個人とメンバーを求める団体をつなげる活動を行います。活動を求める個人、団体に登録をしていただき、それぞれが求める活動や人材をつなげます。
◇交流・イベントの開催
　団体がつながる交流事業や、活動をPRする市民活動祭などを適宜開催しています。
◇情報提供
　市民活動に加えボランティア活動、地域活動、生涯学習など幅広く情報を提供します。
◇講座の開催
　活動の実施・活性化に役立つ講座や団体の方に
　講師を行っていただく講座を開催します。

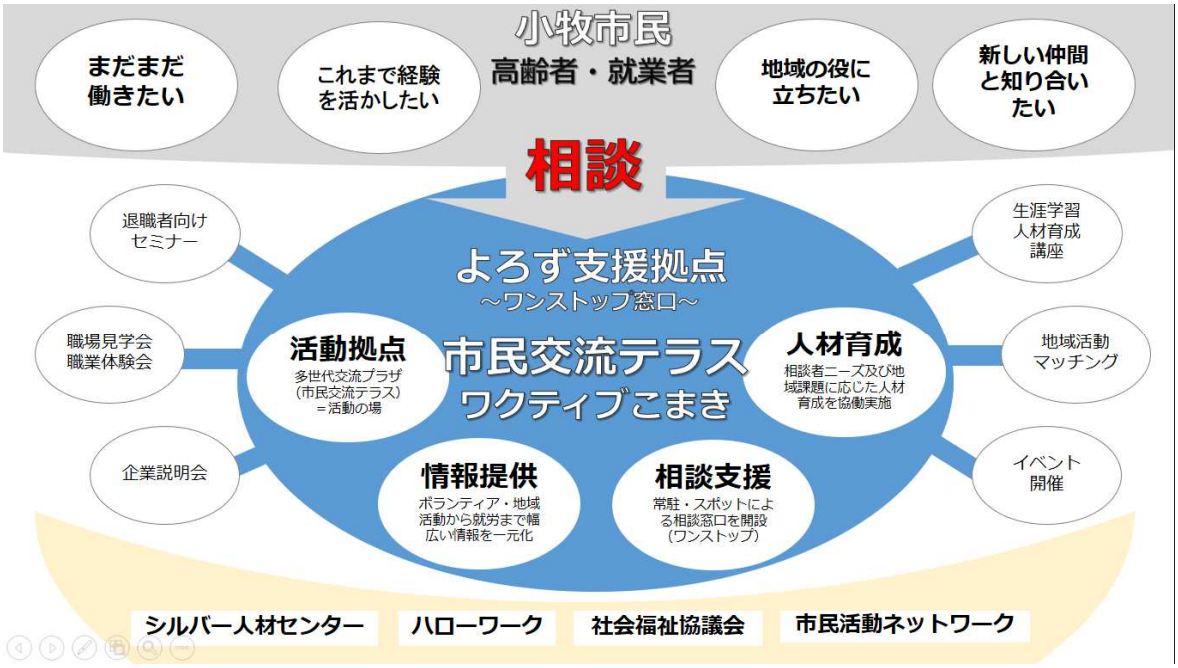




新たな視点２「多様な人材の活躍を推進する」

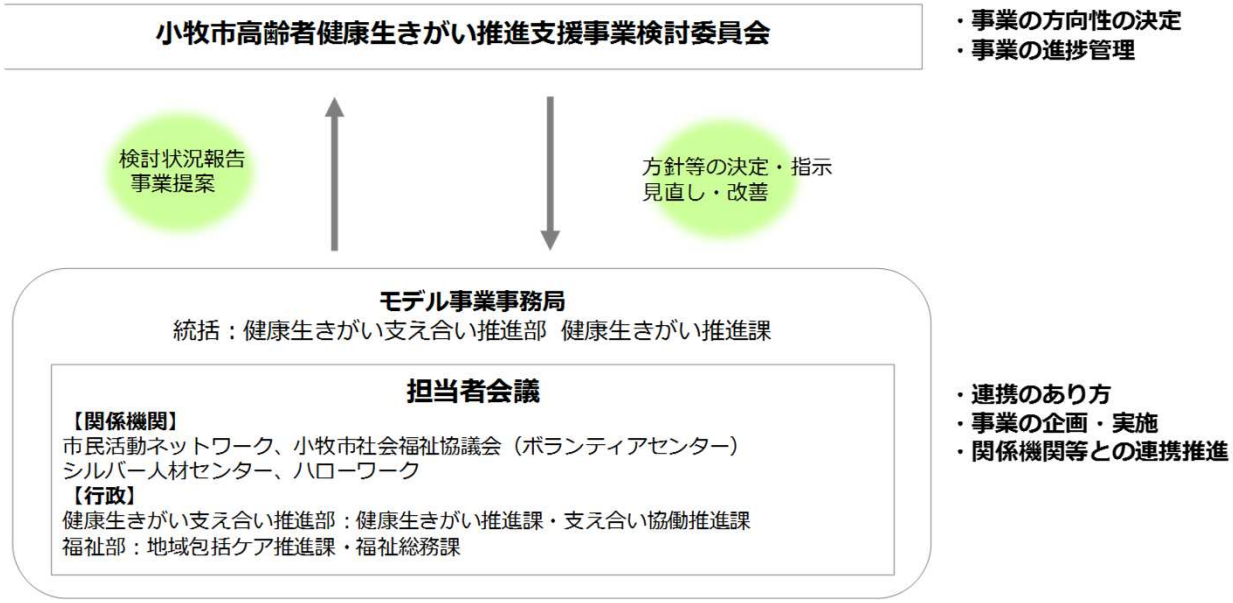
②高齢者がいきいきと輝くまちづくり事業　基本目標３

高齢者の就労・生きがいづくり支援の充実に向けて、令和２年９月に開設した市民交流テラス（ワクティブこまき）を、拠点として、就労・生きがいづくりを支援する関係機関が連携した**ワンストップ支援窓口**を整備します。



〇推進体制

事業の推進に向けた協議・検討・評価を協働により実施するため、以下のような推進体制により、**一体的な支援**を目指します。



【開設期間】
令和２年１０月１日から

【目指す成果】
「**その人らしい**生きがいづくりの支援体制の強化」

＊その人らしさ　とは、人それぞれ。
⇒　多種多様な相談をワンストップで受け付ける窓口（多機関が連携して運営）

【課題】新たな生活様式を踏まえ、また、2040年を見据えた高齢者支援に向けては、従前の支援手法だけではなく、これからの時代にあった支援策を検討する必要がある。

新たな視点２「多様な人材の活躍を推進する」

基本目標３

③多文化共生推進プラン（第２次プラン）の策定

こまき市民が多文化共生を推進していくために、市では、2011年3月に多文化共生推進プラン（第1次プラン）を策定しました。その後外国人人口の増加や外国人の国籍(こくせき)の多様化などの変化に伴い、今後も引き続き「多文化共生のまち」をめざしていくため、第1次プランの内容を改定し、「小牧市多文化共生推進プラン【第2次プラン】」を2020年7月に策定しました。

プランの体系図

「できることを広げていこう」編（2020～2027年度）

スローガン
みんな「こまき市民」、助けあって笑顔で暮らせるまち

私たち「こまき市民」は、お互いに
自ら進んで
地域社会へ参加します
（地域社会への参加促進）
差別することなく
人権を尊重します
（個人の尊厳と基本的人権の尊重）

めざすこと
（基本目標）

めざすこと①	めざすこと②	めざすこと③	めざすこと④	めざすこと⑤
一人ひとりの防災対策が100点のまちにします	自治会等の活動への参加を増やします	誰もが暮らしの情報を知ることができるようにします	子どもたちの「多文化共生」を応援します	国籍・民族・文化・言葉などお互いの「ちがい」を学びます

挑戦すること　挑戦すること　挑戦すること　挑戦すること　挑戦すること

市民　企業　行政

できることを広げていきます

新たな視点２「多様な人材の活躍を推進する」

ア）外国人児童生徒教育への取組み

❶プレスクール事業
対象：小学校就学前の子どもたち
目的：日本語の能力を伸ばし、日本語以外の言語を母語とする児童が小学校生活において、円滑に教師や児童とコミュニケーションが図れるように援助します。

❷外国人生徒進路説明会
対象：外国につながる児童生徒 及び 保護者
日時：毎年　７月末の日曜日

❸日本語初期教室（にじっこ教室）
目的：小牧市の小中学校に転入学及び編入してきた日本語がほとんどわからない外国人児童生徒に対して、一定期間集中的に学習することで、在籍小・中学校への就学が円滑に行えるようにすることを目的としています。
体制：室長１名、語学相談員７名、日本語指導員２名
内容：○　学校生活上必要となる最小限の日本語、簡単な日常会話
　　○　ひらがな・カタカナ（小１程度の漢字）
　　○　日本の学校生活のきまりや習慣
　　○　教科指導（算数・数学等）
実績：約５０名（令和元年度）

❹語学相談員・日本語指導員の巡回
巡回語学相談員　　１３名
（ポルトガル語　４名
スペイン語　３名
タガログ語　４名
中国語　２名）
巡回日本語指導員　２名

【活動内容】
- 児童生徒の学習補助
- 進路相談
- 通知表や保護者への連絡事項などの翻訳
- 保護者懇談会での通訳
- 児童生徒への母語指導　など

❺母語指導
【目的】
- 親子のコミュニケーションの道具、絆となる言葉とする
- アイデンティティを確立する
- 二言語話者として、日本の友達から認められるようにする
- 言語経験により、新しい言語を獲得しやすくする
- 言葉で感情や意思を伝える、考えることを学ぶ

新たな視点２「多様な人材の活躍を推進する」

イ）外国人のための相談事業（市）

小牧市では外国人市民の生活に必要な情報を提供するため、全般的な相談を多言語で行っています。

【対応言語】
ポルトガル語・スペイン語・英語
その他の言語は、自動翻訳機も導入。

【相談件数実績】

2015年度　9,542件
2016年度　11,021件
2017年度　11,542件
2018年度　11,129件
2019年度　11,351件

ウ）外国人向けバス乗り方教室（公共交通利用促進協議会（市民活動団体））

公共交通利用促進協議会では、外国人の方々にこまき巡回バス「こまくる」の乗り方を知ってもらうため、小牧市国際交流協会（ＫＩＡ）主催の日本語教室に通う生徒対象に『外国人向けバス乗り方教室』を開催しています。

【実績】令和２年１０月２５日（日）４０名参加

エ）日本語教室（ＫＩＡ）

日本語を必要とする在住・在勤の外国人への学習支援活動として、日常生活に欠かせない日本語を習得するため、１年を３期にわけて（１期約３～４か月）大学非常勤講師とその養成講座終了講師により日本語教室を開催しています。

【令和2年度第2期参加者内訳（10月21日現在）】

ルーツ国	参加人数	パキスタン	1
アメリカ	1	フィリピン	10
アルゼンチン	1	ブラジル	24
インドネシア	11	ベトナム	47
ウガンダ	1	ペルー	4
エジプト	1	ボリビア	6
グァテマラ	1	ポルトガル	1
タイ	1	ミャンマー	1
ネパール	1	中国	3
		合計	115

オ）外国人のための防災教室（ＫＩＡ）

市内在住、在勤、在学の小学３年生以上の外国人を対象に防災教室を開催しています。
日　時：令和２年１０月２５日（日）
参加者：15人（ペルー８人、ブラジル４人、ボリビア２人、コロンビア１人）

カ）災害時外国人支援ボランティア講座（ＫＩＡ（市委託事業））

市内在住、在勤、在学で地域の防災に関心があり、日本語及び日本語以外の言語で日常会話コミュニケーションが取れる方を対象に、養成講座及びフォローアップ研修を開催しています。
日　時：令和２年１１月２９日（日）